



平成27年度共同機構研修計画 (27年4月～27年11月)

1 平成27年度の研修会のねらい

乳幼児一人ひとりの豊かな育ちを保障する保育者のかかわりや子どもの育ちを理解し、保育の振り返りを行うことで改めて保育を見直し、保育の質の向上と、子育て支援や気になる子どもと保育、保幼小連携等、今日的な課題を見据えた研修とする。ねらいを達成するため、「つながる」「園(所)内研修」をキーワードとして研修を行う。

2 平成27年度の研修予定

日 時	講 座 名 ・ 内 容 等	講 師 名
4月24日(金) 15:00～17:00	「養護の働き」と「教育の働き」は交叉している 保育の中で大切にしたい「養護の働き」と「教育の働き」は、二つの働きが単に前後して子どもに振り向けられるのではなく、両者は切り分けられず捻れた両義的な関係であることについてエピソードをもとに学ぶ。	鯨岡 峻 中京大学客員教授
5月20日(水) 15:00～17:00	エピソード検討会の役割～園(所)内研修の充実に向けて～ 子どもの見方や保育者への対応など日々の保育を振り返り、資質の向上をねらった研修、また、校種を超えた職員と共に子どもやその保護者への理解を深め、対応について検討する等の際に、エピソードを用いることでどのような良さがあるのか、これまでの研究プロジェクトで提案されたエピソード等から学ぶ。	大倉 得史 京都大学大学院 准教授
6月15日(月) 15:00～17:00	乳幼児の遊びと保育者の専門性 子どもにとって遊びとはどのような意味があるのか。豊かな遊びやよりよい保育には保育者こそが鍵を握る。保育園(所)・幼稚園の現場と共に研究・研修を積み重ねてこられた実践をもとに学ぶ。	北野 幸子 神戸大学准教授
8月27日(木) 15:00～17:00	保護者理解と支援 現在の保護者の状況や悩みを理解し、そのために保育園(所)・幼稚園は何を大切にすべきか、関係機関との連携の重要性と共に学ぶ。	倉石 哲也 武庫川女子大学教授
9月11日(金) 15:00～17:00	保護者対応のポイントを学ぼう 様々な要求を一方向的に言うてくる保護者はモンスター? 日頃の保護者との関係作りやうまく関係を結ばない保護者への対応等について学ぶ。	森崎 和代 女性ライフサイクル研究所 Felien
11月30日(月) 15:00～17:00	学びをつなぐー保幼と小学校をつなぐー 保幼小連携から見えてきた幼児期の学びについて、幼児期の保育や子どもの育ちについて、小学校への接続の視点で振り返り、その重要性について語れることの大切さについて学ぶ。	西川 正晃 大垣女子短期大学 教授

夜間講座

11月6日(金) 18:30～20:30	気になる子どもに寄り添う保育とは 気になる子どもの行動の背景に目を向けることの大切さや、「育てにくさ」に悩む保護者とのかかわりについて学ぶ。	小枝 達也 鳥取大学教授
-------------------------	--	------------------------

エピソード検討会(対象:保育園(所)・幼稚園・認定こども園の先生)

10月29日(木) 15:00～17:00	子どもの心の育ちに目を向けて、エピソードで保育を考えてみませんか～保育園(所)・幼稚園の垣根を越えてつながろう～ グループ討議を通して、一つのエピソードを紐解きながら、子どもの心の育ちとそれを支える保育者の在り方について考えます。この研修会での学びを持ち帰り、園(所)内での研修に活かしてみましよう。	鯨岡 峻 中京大学客員教授
--------------------------	--	-------------------------

特別研修(児童家庭課・保健医療課と合同)(対象:保育園(所)・幼稚園・認定こども園の先生・子ども支援センター職員・保健センター等保健師)

7月未定 15:00～17:00	関係機関との連携の重要性～関係機関とのつながり～ 発達相談への対応、虐待予防に向けて各機関の役割と関係機関との連携の重要性について学び、グループ討議を通して課題を共有し、つながることの大切さを学ぶ。	藤田 庄 第二児童福祉 センター所長
---------------------	---	---------------------------------

* その他、「教育委員会 保・幼・小・中連携推進事業」(学校指導課初等教育担当)との合同研修

第3期研究プロジェクト報告会を開催しました

こどもみらい館第3期研究プロジェクトの報告会を1月26日に開催しました。企画推進会議(研究・研修部会を含む)の委員の皆様をはじめ、遠いところは他府県からもご参加いただき、無事に報告会を終えることができました。当日は、両研究でお世話になっております、鯨岡峻先生と大倉得史先生に報告内容について講評いただき、研究メンバーはもとより、参加された皆様方にとっても学びとなったのではないかと思います。

第3期のプロジェクトは報告会の開催及び報告書の発行をもって終了となりましたが、アドバイザーの先生方にご示唆いただいたことを、今後の研究に引き継いでいければと考えております。

子どもの育ちの連続性研究プロジェクトの報告内容

第3期の子どもの育ちの連続性研究プロジェクトのテーマは、子どもの心の育ちに目を向け子どもの育ちをつなぐ保育と保幼小連携を探る～「自信」を育み、つなげる～としました。

自信 特に乳幼児期の自信とは、保育者側からできるようになるためにやらせて、できたことを褒めて、つけさせた自信ではなく、ありのままの自分でいいんだと思える、根本的な自信がまずは大切であり、そこが十分に満たされていることで、自分からやってみようと思える、それら全体が自信だと捉えました。そのためには、子どもの負の姿もまるごと受け止めること、その安心感の中で、その子に応じた援助をしながら、子ども自らが育っていくことを信じて待つ。そして、集団としては、互いを認め合える関係をつくっていくことです。その土台をしっかりと育てて、児童期へつないでいきたいです。

今回、小学校の先生を交えてエピソード討議をする中で、保育園(所)・幼稚園でしっかりと内面を育てておいて欲しいと言われたことが印象的でした。見た目だけ、形だけできるようにしていても、結局は小学校にいても自らしようとはせず、伸びもないとのこと。私たち保育者が大切にしていきたいと考えているものと同じであることが嬉しく、全園(所)・全小学校で同じように考えていければと感じました。

つなげる 特に心の育ちをつなげていきたいと考えますが、心の育ちは、保育園(所)・幼稚園時代だけ、あるいは小学校時代だけ切り離して考えられるものではなく、一生涯つながっています。

小学校は、乳幼児期の育ちを知り、その上に児童期としての育ちを重ねていくこと。保育園(所)・幼稚園は、その後の育ちを知ることで、自分の保育が本当の意味で子どもの心を育てられていたのかを検証し、保育を見直し、変えていかなければならないと感じました。私たち保育者は、子どものその後の育ちを支える大切な土台をつくる責任を負っていることを再認識しました

そのためには 保育園(所)・幼稚園と小学校が一人ひとりを丁寧に見る連携をしていくことが重要だと考えます。

今後の課題 小学校生活になじめない子ども等から、乳幼児期の育ちや保育者のかかわりを見直していけるのではないかと考えています。その方法として、保育園(所)、幼稚園及び小学校の先生方が一緒に様々なエピソードを見ていくことが必要であると感じています。



子育て支援研究プロジェクト

第3期の子育て支援研究プロジェクトでは、テーマを「親子の育ちを支える子育て支援」として、保育園(所)・幼稚園が何故子育て支援をしなければならないのかという支援者としての根本的な意識の持ち方について本音で語るどころから始めました。

支援者として

自園(所)の支援の範囲での知識だけではなく、様々な子育て支援施設や関係機関の見学や視察を通して、自分の目で見て、その場の空気を肌で感じ、職員の話や話を聞くことで、支援することの本当の意味を共通理解することができました。

子育て支援とは

保護者の悩みや相談に対して答えを返すという向き合う関係ではなく、保護者を一人の人間として主体的に受け止め、隣で寄り添い、一緒に考えていくことです。

また、エピソード記述を通して学んだことは、親子との「接面」の場面を作り、その一瞬、一場面での親や子どもの気持ちはどうだったのか、自分はどのように感じたのかなど、両者の心について深く探っていくことの重要性についてとらえることができました。保護者、子どもそれぞれに今までの生活の中での歴史的な背景があり、その部分を含め、今の保護者の周囲との関係性など丁寧に見ていくことで、保護者が何に悩み、どのような状態にあるのかということも少しでも早く察知して、それぞれの保護者にあった対応をしていくことの重要性について学びました。

保育園(所)・幼稚園の子育て支援では

共通するところや違いがありますが、地域の子育て家庭の保護者を含め、在園児の保護者にも同じ気持ちで支援するという。そして、メンバー一人ひとりが支援者としての自覚を持ち、「今の保護者の抱えるしんどさ」を理解し、保護者に寄り添い、保護者が少しでも子育てに前向きになれるよう支えていくことが大切であるということも学びました。

このように支援者として「保護者を懐深く受け止め」そこでのかかわりの大切さについて実感できたことは大きな成果であると思います。

今後の課題

この支援者としての自覚が「親子を支える子育て支援」として各園(所)に根付いていよう、メンバーそれぞれが実践し、伝えていくこと。また、様々な関係機関との連携、地域とのネットワークの構築が大切になってきます。

また、保護者の抱えるしんどさを理解するためにも、具体的な方法論を提示していくことが必要であると感じています。



スーパーバイザーの鯨岡峻先生と、研究アドバイザーの大倉得史先生より、両プロジェクトの研究報告に対してコメントをいただいております。

それぞれの研究プロジェクトの研究内容の詳細と併せて、第3期『こどもみらい館研究プロジェクト報告書』に掲載しておりますので、是非ともご覧ください。

講師 木下 光二 鳴門教育大学教授 (公社)京都市私立幼稚園協会共催
育ちと学びをつなげる連携教育
 ～学びの芽生えと保育の質～

「連携」「交流」は何のためにするのでしょうか。保育園(所)・幼稚園で育てた子どもたちが、小学校に行って幸せになるためです。同じ姿を見ているのに、これまでの育ちを知っている者は「こんなにできるようになった」と感じ、知らない者は「こんなこともできないんだ」と捉えてしまいがちです。子どもたちがこれまでどのように育ってきたのか、これからどのように育っていくのかを保育園(所)・幼稚園と小学校の先生が互いに知り、評価観をそろえていくことが大切です。保育園(所)・幼稚園の先生方は小学校の先生に乳幼児期の育ちや幼児教育について伝えていくことが重要になります。そのためには、日々消えていってしまう子どもの姿を記録として留めていくことが求められます。小学校へのみならず、保護者への伝達、園(所)内研修等にもいかしていただくください。

そして、小学校との連携を言う前に、まずは幼児期に「遊び込めるような子どもになっているか」が重要だと考えます。遊び込める子どもは学び込めると考えるからです。遊び込める子どもに育てるためには、幼児期にふさわしい生活があるかどうか大切です。遊ばされているのではなく、自ら環境に働きかけ遊んでいるのでしょうか。そのためには、先生がやらせるのではなく、かといって「したくないならしなくてもいい」ではなく、子ども自身がやりたくなるように援助していくことが大切です。そのような遊びの中には、様々な「学びの芽生え」があります。保育園(所)と幼稚園が交じり合い、保育の質を高めることがとても重要ではないでしょうか。

近年「接続」の重要性が言われています。「連携」は子どもや先生同士の交流、「接続」はカリキュラムをつなぐことを言います。カリキュラムに位置づけることにより、連携に熱心な先生がいようがいまいが継続して続けていけることをねらっています。カリキュラムは紙面上で作れてしまいます。しかし、連携から見えてくる具体的な子どもの学びの姿から作成していくことが大切です。「接続」と「連携」は車の両輪なのです。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
 講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

講師 橋本 真紀 関西学院大学教授 (公社)京都市保育園連盟共催
保育園(所)・幼稚園における他機関、地域資源との連携
 ～予防的支援の観点から～

保育所保育指針には、保育所における保護者に対する支援の基本が挙げられ、「子育て支援に関する資源を積極的に活用すると共に、地域の関係機関、団体との連携協力を図ること」とあります。1990年代半ばから、地域子育て支援事業が始まって20年経ちますが、今までに、DV、薬物、虐待、生活保護家庭、産後うつ、精神疾患、発達支援が必要な子どもの母親など、何かの支援を求めて支援の場を利用する方が増えてきています。このように様々な生活上の困難感を抱えている家庭に対して、他の親子や支援者、保健師、一時預かりなどが連携を行うものを課題対応型と考えます。しかし、このような課題が発見される前から、地域の保育園(所)・幼稚園もみんなでネットワークを張り巡らせ、つながって予防的な支援をしていくことが必要です。

予防的支援の連携としては、地域資源の視野を広げ様々な地域資源を活用する事です。地域資源とは、地域にある社会資源全てです。その中で強みを見つけていただきたいと思います。保育のときにその子の課題から入るよりも得意なことから働きかけた方が関わりやすいのと同様に、連携も相手の得意としているところから考え、そこからお願いしてみる事です。

国の制度の中で、利用者支援事業が平成26年から試行実施され、平成27年度から本格実施になります。要支援家庭から、ちょっと心配な家庭を含めて、利用者支援専門員が情報提供や必要に応じたコーディネートをするという事業です。また、児童発達支援センターを中核とした支援体制や、虐待などの窓口として要保護児童対策地域協議会があります。保育園(所)・幼稚園が他の機関と連携するときも、この枠組みを理解して、仕組みを調べておくことで連携しやすくなります。

保育園(所)・幼稚園の場合、入園(所)児に課題対応型が多いのですが、保育の場や、地域子育て支援の場でその力を発揮していただき、課題対応型の背景となる基盤づくりのために、是非ネットワークを作っていただきたいと思います。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
 講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

